

7F 上映室

タイムテーブル

6日→ ショートピース! 仙台短篇映画祭より
7~8日→ 山形国際ドキュメンタリー映画祭より
9~12日→ 3がつ11にちをわすれないためにセンターより

3/6 (火)

18:00 311仙台短篇映画祭映画制作プロジェクト作品 「明日」(137分)

7 (水)

13:30 『わたしたちにできたこと できなかったこと』(30分)

14:05 『東日本大震災 教訓を次世代へ』(31分)

15:00 『なにやどやら 一陸中・小子内の盆唄-』(60分)

16:30 『100年の鼓動 -ハワイに渡った福島太鼓-』(57分)

18:30 『なみのおと』(142分)

21:00 【トーク】濱口竜介×酒井耕(40分)

8 (木)

11:00 『すぐそばにいたTOMODACHI』(100分)

13:10 『東日本大震災東北朝鮮学校の記録 2011.3.15-3.20』(67分)

14:50 『桜枝岐歌舞伎 やるべえや』(76分)

16:40 『フレーフレー山田 -忘れないための映像記録-』(55分)

18:00 『雪海』(60分)

19:00 【トーク】畑中みゆき×大竹暁(40分)

9 (金)

15:50 『メディアテーク被害状況報告』(10分)

16:10 『2011.3.27 仙台-塩竈-仙台港-仙台』(91分)

18:00 『東日本大震災東北朝鮮学校の記録 part.2』(40分)

18:50 【トーク】コマプレス×東北ハッキョ 尹校長先生(60分)

10 (土)

10:30 音声解説・日本語字幕・託児つき映画『エクレール・お菓子放浪記』(107分)

13:30 『2011.6.10 県道10号-七ヶ浜-汐見付近-海岸沿い』(51分)

14:30 『あいだのことは』(60分)

16:00 【報告会】そこで出会ったことは 小森はるか×瀬尾なつみ(60分) @プロジェクトルーム

17:00 【交流会】サロン・ド・わすれんヌ(60分) @プロジェクトルーム

*どなたでも自由に参加できます。直接会場へ

3F 図書室

日時：仙台市民図書館開館時間に準ずる(火~金 10:00~20:00, 土・日・祝 10:00~18:00)

会場：3・4階 仙台市民図書館

図書室には、この震災によって起こったさまざまな状況を
落ちついて考えていくための資料がたくさんあります。

(仮称) 3.11 文庫 (さんてんいちいぶんこ)

仙台市民図書館では東日本大震災関連資料を(仮称)「3.11 文庫」として収集しています。震災前・震災後の地図

「仙台市区分地図 2011」「復興支援地図」「津波詳細地図」やハザードマップ、震災関連の書籍、新聞・雑誌を展示します。

*上記所蔵資料の一部を3月10日(土)~11日(日)に限り、1階会場で展示します。

3/11 (日)

11:00 『2011東日本大震災 仙台一市民の記録』(27分)

11:40 『どうか記憶よ離れないで』(52分)

13:30 『測量技師たち』(13分)

13:50 【トーク】志子田勇×高野裕之(50分)

14:46 黙 禱

15:00 『傾いた電柱 ~東日本大震災 高野原団地 宅地被害からの復旧~』(20分)

15:30 『絆で醸す「日本一」の酒~支援へのお返し』(20分)

16:00 『声の届き方』(40分)

16:50 『Café de Monk』(15分)

17:20 『chip cultet』(5分)

17:30 『なみのこえ β(ベータ)』(60分)

18:30 【トーク】濱口竜介×酒井耕(60分)

19:45 【ユーストリーム放送】かたログ×てつがくカフェカウンタートーク(60分) @プロジェクトルーム

*どなたでも自由に参加できます。直接会場へ

12 (月)

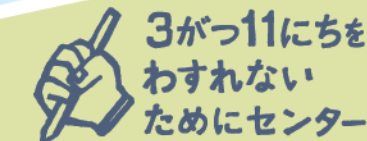
15:30 『Onagawa Curry & Film vol.3 蒲鉾本舗高政 高橋正樹さん』(30分)

16:00 『ここから』(8分)

16:20 『沿岸部の風景』(90分)

18:30 『動物たちの大震災』(30~60分)

19:30 【トーク】穴戸大裕(60分)



3がつ11にちを わすれない ためにセンター

東日本大震災による甚大な影響に対し、ともに向き合い考え、復興への長い道のりを歩きだすために「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を、2011年5月3日にせんだいメディアテーク2階に開設し、2012年1月27日の7階フロア再開にあわせて活動場所を7階プロジェクトルームに移設しました。このセンターでは市民、専門家、スタッフが協働し、震災の復旧・復興のプロセスを独自に発信、記録していきます。さまざまなメディアの活用を通じ、情報共有、復興推進に努めるとともに、映像・写真・音声・テキストなどを「震災の記録・市民協働アーカイブ」として蓄積・公開します。センターには「スタジオ」と「放送局」があり、スタジオは情報収集やビデオカメラ等取材用機材の提供のほか、テキスト執筆、映像や写真の編集、インターネットへの配信などに、放送局ではインターネットを介した番組の収録・配信をおこないます。

<http://recorder311.smt.jp>

wasuren@smt.city.sendai.jp

Twitter, Ustream, Facebook @recorder311



お問い合わせ

せんだいメディアテーク 企画・活動支援室

〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1

tel: 022-713-4483 fax: 022-713-4482

mail: office@smt.city.sendai.jp

www.smt.jp

この欄はリサイズできます。

星空と路

3がつ11にちをわすれないために

あの星空から、1年が過ぎました。

ほんとうに多くの人々が、決して本人の意思など届かない

さまざまな状況や変化に見舞われ、

それぞれに足元の定まらぬ道を歩いてきたように思います。

せんだいメディアテークは、2011年5月に

「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を設置し、参加者である

多くの市民とともに震災復興のさまざまな過程を記録し、発信してきました。

この度、それらの一部をお披露目しつつ、みなさんとともに、

この1年を振り返る機会を過ごすことができればと思います。

7階スタジオシアター

2012年

3月6日(火)~12日(月)

1階オープンスクエア

17:00~21:30

9:00~21:30

10日(土)~11日(日)

入場無料(一部の映画上映で有料) 主催:せんだいメディアテーク, 仙台市民図書館

<http://www.smt.jp/hoshizoratomichi/>

資料室

10日(土)17:00～21:30
11日(日)9:00～21:30
会場：1階オープンスクエア

「3がつ11にちをわすれないためにセンター」や図書館に集められた諸資料の展示や、復興に向け、いまま続々さまざまな活動をご紹介します。

市民が撮った震災記録写真

市民が撮影した震災・復興の記録写真のアーカイブを見ながら体験の聞き取りをおこないます。同時に、写真の募集をします。写真はDVDなどのメディアに記録してお持ちください。※写真募集は3月11日(日)10:00～17:00 募集方法に関する詳細はホームページをご確認ください。協力：NPO法人 20世紀アーカイブ仙台

関連トーク

「**仙台平野を襲った災害の史実に学び、伝える。**」杏形遺跡・貞観地震の地質にみる津波の痕から今回の震災を考えます。ゲスト：木村浩二(仙台市教育委員会文化財課)日時：3月10日(土)17:00～18:30 同時開催**「3.11キラクのキロク～市民が撮った震災記録」**写真展被災者自らが撮った震災記録、そして次世代に残そうとしたみんなの想いをエピソードとともに展示します。日時：3月10日(土)～31日(土)9:00～22:00(初日は17:00から)会場：1階・7階の南側スペース

暮らしのシェア

これからの被災地の仕事や食生活について、手仕事支援や放射線測定の活動やこれまでの「暮らしのシェア」の番組映像を通して考えます。協力：せんだいコミュニティカフェ準備室、小さな街

手仕事支援

仙台的仮設住宅での布巾づくり、石巻での雑貨・クッキーづくりなど、沿岸部の手仕事支援活動を紹介します。協力：まめまめ手仕事プロジェクト、雑貨・茶ろん もも

てとてと研究所

宮城県南部の有機農家を中心となって運営している「みんなの放射線測定室「てとてと」。わたしたちがいつも食べている野菜や食品の放射線量を可視化します。協力：みんなの放射線測定室「てとてと」*そのほか、宮城県内の農業、海苔・炭などの生産現場における復興の様子を映像で紹介します。

サポセンかわら版

復興支援活動情報を発信している「サポセンかわら版」を振り返る展示をします。協力：仙台市市民活動サポートセンター、市民ライターグループ「おかきプラス」

『星空』

2011年3月11日の夜の写真をスクリーンに投影します。時間：両日とも17:00～21:30 提供：越後谷出

『国道45号』

仙台―多賀城―仙台港―仙台 2011年3月21日撮影(100分)

『国道45号・国道398号』

仙台―多賀城―塩竈―松島―東松島―石巻―女川 2011年5月21日撮影(160分)震災後に撮影された仙台市内住宅地から宮城県沿岸部までの車載映像を上映します。提供：木村グレゴリオ

震災復興を考える本

「震災の〈当事者〉とは誰か」など、震災に関するさまざまな問いをたて、毎月対話をおこなっている「てつがくカフェ」。それらのカフェのなかで紹介された本や、私たちに震災を考える上でヒントを与えてくれる本を図書館所蔵資料から展示します。協力：てつがくカフェ@せんだい、仙台市民図書館

震災体験と復興へのこえ

さまざまな活動を、パネル展示と映像・写真・音声・絵・冊子などで紹介します。

聞き取り、語りつぐ『民話の会』

「第七回みやぎ民話の学校：津波を語る」の映像、津波体験を聞き書きした冊子「巨大津波」協力：みやぎ民話の会、やまもと民話の会

路上から見た震災

『**定禅寺ジャーナル・ハッピー通信**』ビッグイシュー販売者が震災体験について書いたフリーペーパーや震災を考える映像協力：定禅寺ジャーナル ウェブ版

震災生活のあれやこれ「おやじストリームカフェ」地震や停電などによる、いつもとは異なる生活体験について市民から募集したエピソード協力：尾崎行彦

震災体験を絵で記録『つれちゃんゆれゆれ 311』20～40代が震災体験について語る映像と書店員が震災直後から一ヶ月間の生活を描いたイラスト協力：つれづれ団、佐藤ジュンコ

まちづくりに対する市民の声『リアルふっこうボイス』復興まちづくりに対する現地の生の声と支援者たちの本音の声協力：まちづくり部、NPO 法人都市デザインワークス

障がい者の震災体験と支援活動『障がい者グラフィティ』さまざまな障がいを持つ当事者や支援者が、被災体験や支援活動、そして今後の活動について、自ら語る映像や支援団体の報告協力：NPO 法人ゆにふりみやぎ、CIL たすけっと、被災地障がい者センターみやぎ

*そのほか、仙台市内社会教育施設が震災関連で取り組んだことや、「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の活動についても紹介します。

7F 上映室

6日(火)～12日(月)
会場：7階スタジオアター

今回の震災では、技術ある人々だけでなく多くの市民も参加し、映像による記録がなされました。伝承に向けた活動です。

311仙台短篇映画祭映画制作プロジェクト作品『明日』

仙台で映画祭を!と、震災後41人の監督が映画づくりに改めて向き合い、つくり上げた仙台発のオムニバス映画。42篇の『明日』には監督たちの思いや葛藤とともに、これからの映画の可能性が映し出されている。〔監督〕阿部理沙 生田尚久 井上剛 今泉力哉 入江悠 ウィスット・ボンニmitt 岡田まり 甲斐田祐輔 片岡翔 加藤直輝 河瀬直美 境千恵子 佐々木健太 佐藤央 佐藤良祐 塩田明彦 志子田勇 篠原哲雄 鈴木太一 鈴木卓爾 瀧田なつき タカハタ秀太 田中博之 田中羊一 田中要次 日平衛史 遠竹真寛 富永昌敬 外山光男 内藤瑛亮 中野裕之 朴美和 濱口竜介 日原進太郎 日向朝子 平林勇 堀江慶 真利子哲也 守屋文雄 山下敦弘 和島香太郎〔撮影地〕日本各地 日本／2011／日本語／英語字幕あり／137分

音声解説・日本語字幕・託児つき映像『エクレール・お菓子放浪記』

戦時下の街で、盗んだお菓子の味が忘れられず、どんな困難なことがあっても、お菓子のように人を明るくしたいと願う少年の成長物語。石巻などでロケを行った話題作。〔監督〕近藤明男 〔撮影地〕宮城県・石巻市 日本／2011／日本語／107分

〔入場料〕1,000円(販売は当日10時から7階スタジオアターにて)〔主催〕せんだいメディアテーク〔共催映画〕『エクレール・お菓子放浪記』製作と上映を支える宮城県民の会**音声解説を聞くための受信機について▶**目の不自由な方には、受信機(イヤホン付きFMラジオ)を無料で貸出します。ご希望の方は事前にお申し込みください。〔電話〕022-713-4484**託児サービスについて▶**託児(1歳半～未就学児。子ども1人150円)をご希望の方は、当日先着順、定員8名までご利用いただけます。(受付時間)9:50～ (受付場所)2階託児室 ※定員になりだい、締切とさせていただきます。

『**わたしたちにできたこと できなかったこと**』大震災発生以降、山形市内でみられた様々な事象を、人物ではなく、張り紙や看板などを通して解き明かす。〔監督〕岡崎孝 〔撮影地〕山形県・山形市 日本／2011／日本語／30分

『**東日本大震災 教訓を次世代へ**』多くの尊い「命」と「日常」が奪われた誰もが想像しなかった受け入れがたい現実。その時…「明と暗」「生と死」を分けたものはいったい何か。〔監督〕赤間信義 〔撮影地〕宮城県 日本／2011／日本語／31分

『**なにやどやら 一陸中・小子内の盆唄**』民俗学者柳田国男の心を引きつけた岩手陸中小子内の盆唄、そして、漁村の暮らし迎える旅。やがて3.11が。〔監督〕平田潤子 〔撮影地〕岩手県・小子内 日本／2011／日本語／60分

『100年の鼓動ーハワイに渡った福島太鼓ー』

戦前、福島からハワイに移住した人たちが残した太鼓や踊りや歌を守り、次世代に伝えようとする日系アメリカ人を描く。FUKUSHIMAへのエールとして上映。〔製作〕ヴィクトリア・ルイン、カル・ルイン〔撮影地〕ハワイアメリカ/2011／英語／日本語字幕あり／57分

『**なみのおと**』**★トークあり**今回我々が写した「語り」とは、直截的な津波の記録映像が「現象の連鎖」であるのに対して、その脅威のなかで人間が何を考え、何を決断したか、そしてその結果はどうなったのかを映し出す「口承記録」です。〔監督〕濱口竜介、酒井耕〔撮影地〕東北地方東沿岸部 日本／2011／日本語／142分

『すぐそばにいた TOMODACHI』

3.11。在日ビルマ人95人が被災地に行きボランティアを行った。様々な事情を抱えながら日本にいるTOMODACHIの行動と思いを映す。〔監督〕セシリア亜美北高 〔撮影地〕宮城県・石巻市 日本／2011／日本語／100分

『東日本大震災東北朝鮮学校の記録 2011.3.15～3.20』

震災で校舎が全壊した東北朝鮮初級中学校。直後の被害状況と支援活動を記録し、東北同胞がいかに震災を生き抜いているのかを、ありのまま示す。〔制作〕コマプレス 〔撮影地〕宮城県・仙台市 日本／2011／朝鮮語、日本語／日本語字幕／67分

『桜枝岐歌舞伎 やるべえや』

尾瀬の大自然に囲まれた「桜枝岐歌舞伎」を守り続ける情熱と感動の記録。原発事故で世界を震撼させた「FUKUSHIMA」のイメージを払拭し被災地の復興のエネルギーになることを願う。〔監督〕安孫子亘 〔撮影地〕福島県・檜枝岐村 日本／2011／日本語／英語字幕あり／76分

『フレーフレー山田 ー忘れないための映像記録ー』

法政大学応援部の被災地山田町での活動記録。「法政大学応援団、岩手県山田町へ」、[団員たちの思い]、「山田の夏」の3部構成。〔監督〕御木茂則 〔撮影地〕岩手県・山田町 日本／2011／日本語／55分

『雪海』

★トークあり塩竈市出身のスキー・モーグル五輪選手・畑中みゆき。略奪や暴動、決して報じられることのない被災地の現実。震災後、畑中とともに避難所を回り、島で暮らす漁師たちと出会い、海に生きることの意味を知る…。〔監督〕大竹晩 〔撮影地〕宮城県・塩竈市 日本／2011／日本語／60分

『メディアテーク被害状況報告』

7階の南側の天井は崩落し、3・4階の仙台市民図書館の床は落ちた本で埋め尽くされていた。建築的特徴の一つであるダブルスキンの内側のガラス壁面も一部破損した。〔素材提供〕仙台CATV、越後谷出〔編集〕せんだいメディアテーク 〔撮影地〕宮城県・仙台市 日本／2011／日本語／10分

『2011.3.27 仙台―塩竈―仙台港―仙台』

トランクに救援物資を積み、助手席にカメラを添え、仙台市内から宮城県沿岸部までの道りを撮影した車載映像。〔記録〕木村グレゴリオ 〔撮影地〕宮城県・仙台市/塩竈市 日本／2011／日本語／91分

『**東日本大震災東北朝鮮学校の記録 part.2**』**★トークあり**震災から半年。被災状況が日常の細々とした、煩瑣な手続きなどに没頭してゆく一方、学校再建という大きな課題に向き合う人々の姿を追う。震災によって変わったハッキョ(学校)の光景とは対照的に子どもたちと先生の変わらざる日常も見つめた作品。〔制作〕コマプレス 〔撮影地〕宮城県・仙台市 日本／2011／朝鮮語、日本語／日本語字幕／40分

『2011.6.10 県道10号一七ヶ浜・汐見付近ー海岸沿い』

トランクに救援物資を積み、助手席にカメラを添え、仙台市内から宮城県沿岸部までの道りを撮影した車載映像。〔記録〕木村グレゴリオ 〔撮影地〕宮城県・七ヶ浜町 日本／2011／日本語／51分

『あいだのこぼ』

★トークあり3月末から小森はるか、瀬尾なつみは東北沿岸部に通い記録活動を続けている。これは石巻市と陸前高田市で私達が出会った3つのお家の会話の記録である。〔制作〕小森はるか 〔撮影地〕宮城県・石巻市、岩手県・陸前高田市 日本／2011／日本語／60分

『2011 東日本大震災 仙台一市民の記録』

8ミリカメラ以来、家族や自らの思索の歴史を記録し続け40年、米寿です。中山五丁目の盛り土宅地は大震災により地滑りで被災、我家も市から避難勧告を受けました。現在地を去るには忍びず、アンダービニング工法で沈下地盤を修復、復興に至るささやかな我家の記録です。〔制作〕末武保政 〔撮影地〕宮城県・仙台市 日本／2011／日本語／27分

『**どうか記憶よ離れないで**』**★トークあり**近くて好きだった土地が、あの日から遠くて近寄りかたい彼の地になった。他人事の再生にしないために、破壊から見つめたい。〔監督〕高野裕之 〔撮影地〕宮城県・関上/荒浜/深沼海岸、福島県・新地町 日本／2011／日本語／52分

『測量技師たち』

★トークあり世界の位置を測り、新たな街を築くために、六人の測量技師たちは荒野となった街に踏み入る。しかし、ここから一体何を描けばいいというのか。映画に何ができるのか?その発端はこの映画の主題でもあり、彼らが測量機材を覗く様は、戸惑いを含めた自分の姿でもある。〔監督〕志子田勇 〔撮影地〕岩手県・陸前高田市 日本／2011／日本語／13分

『傾いた電柱 ～東日本大震災 高野原団地 宅地被害からの復旧～』

東日本大震災による内陸部の宅地被害は4,031戸。行政の支援策が具体化しないまま半年以上が過ぎ、被災者は傾いた自宅を修繕することもできず避難を続けている。被災から1年後、大きく傾いた電柱はどうなるのか。地盤沈下や地滑りなど規模ながらも深刻な宅地被害の実態と復旧への道程を記録。〔ディレクター〕鈴尾啓太 〔撮影地〕岩手県・大槌町/陸前高田市、宮城県・南三陸町/女川町/名取市、福島県・南相馬市 日本／2011／日本語／20分

『**絆で醸す「日本一」の酒～支援へのお返し**』**★トークあり**究極の食中酒、柏栗屋をつくる大崎市三本木町の新澤醸造店。震災で築140年の蔵が全壊判定を受け、新澤さんは今後の酒造りへの大きな決断を迫られた。復興の誓いとしての酒造りに全国の蔵元仲間が駆けつけ、真夏の三本木で酒造りが始まった。〔ディレクター〕佐藤陽子、関口幸希子 〔撮影地〕宮城県・大崎市 日本／2011／日本語／20分

『声の届き方』

「脱原発」と街頭で意思表示をする人たちの声が、それを外側から見つめる人たちにどのように届いているのか、昨年行われたイベントを元にインタビューを行った。〔ディレクター〕伊藤照手 〔撮影地〕宮城県・仙台市 日本／2011／日本語／40分

『Café de Monk』

“Monk”とは英語で修道者、僧侶。そこへ悶苦(もだえ苦しむ)の意味をかけ、震災後に傾聴を目的とした移動喫茶が宗教者たちによって行われている。宗派を超えて結集し、犠牲者の弔いや被災者への傾聴活動を始めた宗教者たち。それを可能にしたものとは。3.11後の信仰の在り方を問う。〔ディレクター〕team Ra+ 〔撮影地〕宮城県・仙台市/石巻市 日本／2011／日本語／15分

『chip cultet』

このFilmには私の好きな場所が、たくさん詰まっている。色/空/カメラ/私の四重奏に、音が聴こえてくるといい。〔監督〕佐藤りえ 〔撮影地〕宮城県・仙台市 日本／2011／日本語／5分

『**なみのこえ β(ベータ)**』**★トークあり**「なみのおと」の続編「なみのこえ」の未編集映像に、監督(酒井・濱口)がコメントを加える形で発表していく。津波被害を受けた宮城県気仙沼市、福島県新地町の声を聴き取り、地域の現状を明らかにしていく。会場とのコール&レスポンスを、その後の編集にフィードバックさせる。〔監督〕酒井耕、濱口竜介 〔撮影地〕宮城県・気仙沼市、福島県・新地町 日本／2011／日本語／60分

『Onagawa Curry & Film vol.3 蒲鉾本舗高政 高橋正樹さん』

創業75年、女川を代表する特産品・かまぼこ製造販売してきた蒲鉾本舗高政。震災からいち早く立ち上がった同社と4代目の高橋正樹さんは今、地域の牽引役として大きな役割を果たしている。〔ディレクター〕宮崎厚志 (Social Kitchen Working Group) 〔撮影地〕宮城県・女川町 日本／2011／日本語／30分

『ここから』

鉄道「飯坂線」(福島ー飯坂温泉)車窓からの風景。2011年12月17日撮影。〔ディレクター〕山岡大地 〔撮影地〕福島県・福島市 日本／2011／日本語／8分

『沿岸部の風景』

東日本大震災から1年間、岩手・宮城・福島の被災地の風景と、そこに生きる人々の姿の映像記録。避難所で暮らす人、墓を探す人、瓦礫撤去や家を解体する人、誰かを待つ人など、彼らの姿を通して、あの地震や津波が何だったのかを考え続けたい。〔ディレクター〕鈴尾啓太 〔撮影地〕岩手県・大槌町/陸前高田市、宮城県・南三陸町/女川町/名取市、福島県・南相馬市 日本／2011／日本語／90分

『**動物たちの大震災**』**★トークあり**東日本大震災では犬や猫も大きな受難を生き抜いてきた。寄り添って生きてきた人々にも、困難の日々があった。動物と人々が生き抜いてきた150日間の日々を紡ぐ。〔監督〕穴戸大裕 〔撮影地〕宮城県・石巻市、福島県・双葉郡警成区区内 日本／2011／日本語／30～60分